

旅のきっかけ本

昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない国内など近場の旅行を楽しんでいるかたも多いと思います。そろそろ海外に！という気分のかたにおすすめの旅への意欲をかきたてる本をご紹介します。

1冊目は、地球の歩き方編集室/編『世界のおみやげ図鑑』です。

「地球の歩き方」シリーズは海外旅行ガイドの定番ですが、コロナ期に売上げが9割減まで落ち込んだそうです。この本は、そんな逆境の中、既刊に盛り込めなかったデータやエピソードを集めたシリーズで売上げを回復した「旅の図鑑」の1冊です。おみやげ選びは旅の楽しみのひとつ。そこでしか手に入らない工芸品や雑貨など122の国と地域のおみやげがオールカラーで紹介されています。旅先を選ぶ時の参考におすすめです。

2冊目は、吉田修一/著『最後に手にしたいもの』です。

この本は、飛行機の機内誌「翼の王国」に連載されたエッセイをまとめたシリーズの1冊です。島国に暮らすわたしたちにとって、飛行機は海外旅行のスタート。その中で読む機内誌は、旅のはじまりのわくわくするような気持ちをかきたてます。吉田修一さんが綴るエッセイは、中国の国道にアメリカを感じ、阿蘇で霧におおわれた天空の湯に浸かり、埼京線で目撃情報を書き込まれ、マカオで苦手なカジノに興じ、韓国のサイン会でヒョンができ…と作家の日常と旅がほどよくミックスされています。旅先でまずやること、という章では、たとえ海外でトラブルに見舞われても広い心を持てる秘訣を学べます。

3冊目は、益田ミリ/著『考えごとしたい旅 フィンランドとシナモンロール』です。

この本は、漫画家の益田ミリさんが「食べて」「歩いて」「考える」ひとり旅の記録です。旅の舞台はフィンランド。フィンランドといえばムーミンやサンタクロース、マリメッコや建築家のアアルトなど、日本人にも馴染み深い国です。映画「かもめ食堂」の主人公・サチエさんは流暢なフィンランド語を話していましたが、英語教育が充実しているフィンランドはほぼ英語が通じるそうで、巻末には名物のシナモンロール注文用の文例集も載っています。

今日ご紹介した本のほかにも、おうちにいながら世界の料理が作れるレシピなど旅行に行きたくなるような本を「今月の本」コーナーで特集します。気になった方はぜひお手にとってみてください。